

三重の土地改良アラルト

農業用水専用の利水ダムである 安濃ダムの洪水時の対応について

津農林水産事務所 安濃ダム管理室

1 はじめに

安濃ダムは、農林水産省が国営中勢用水事業（S47～H3）の水源として造成した農業用水専用の利水ダムです。

ダムの施設や敷地は国の財産ですが、平成元年12月から国より委託を受け、三重県が操作管理を行っています。



形式	重力式コンクリートダム
堤高	73.0m
堤長	212.0m
総貯水量	10,500 千 m ³
有効貯水量	9,800 千 m ³
集水面積	27.5km ²

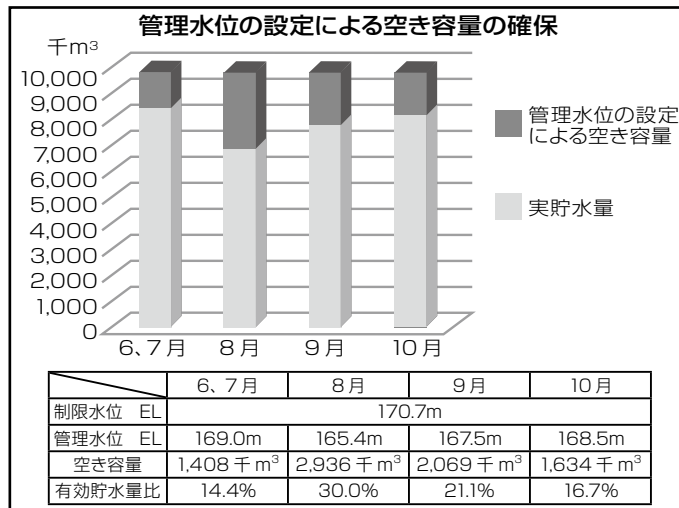
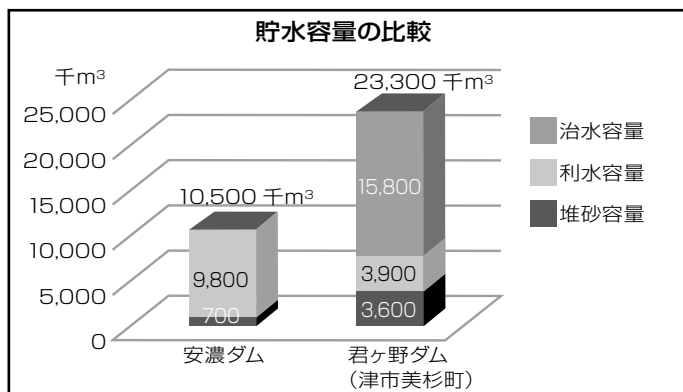
安濃ダムは利水のためのダムですので、洪水調整のための空き容量は設定されていません。同じ津市内の君ヶ野ダムと比べると、目的と規模の違いが判るかと思います。

しかし、ダム下流の安濃川は河川整備計画に基づく改修事業が進捗していないため、ダムからの洪水放流に注目が集まっています。このため、ダムでは幾つかの取り組みを行っており、土地改良施設の地域貢献の一つとして紹介します。

2 安濃ダムの洪水への取り組み

(1) 管理水位の設定

安濃ダムは、県が管理を開始した当初から、操作規程による制限水位よりも低い「管理水位」を設定して運用しています。これにより一定の空き容量を確保し、急激な降雨によるダム操作の遅れに対応しています。



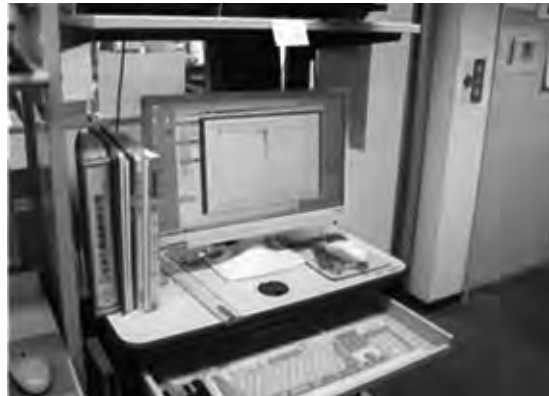
(2) 事前放流（試行）の実施

台風等によって豪雨が予想される際は、更なる空き容量確保のために管理水位よりも水位を下げる取り組みを行っています。

これは、気象情報等によって洪水を予測し、河川に影響の無い範囲（最大46m³/sで）での放流（試行）をおこなうもので、6月から10月の間に農業用水の利用に影響の無いように配慮しながら行っています。

(3) 降雨量や流出量の予測

事前放流（試行）の実施にあたっては、適切な降雨予測と流出解析が重要です。このため日本気象協会に委託し、安濃ダム流域の降雨予測と流出解析を行うシステムを導入し、毎年、精度向上に努めています。



3 おわりに

安濃ダムの取り組みは、安濃川の洪水軽減に貢献しています。しかしダムだけで洪水を防止することは不可能ですので、今後は、県、市、関係団体の更なる取り組みを模索していく必要があります。